

活動目標

みんなの助川を
住みよいまちに!!

助 川

発行 助川学区コミュニティ推進会
 発行責任者 秋山 竹彦
 編集 調査広報部
 事務局 〒317-0071
 日立市鹿島町1-21-7
 助川交流センター内
 TEL 0294-23-0955

ホームページ : <http://www.net1.jway.ne.jp/c-sukega/>



《式典の部》

主催者挨拶
出席者紹介

令和5年 1月13日(金) 開催されました

助川学区コミュニティ推進会会長
 日立市役所生活環境部部長
 助川学区コミュニティ推進会
 会長・副会長・支部長・専門部長
 助川交流センター運営委員会
 助川小学校・助川中学校・平沢中学校
 かみちょう保育園・助川地区民生委員児童委員協議会
 教育機関 日立工業高等学校
 助川交流センター 協力員



新春のつどい

来賓紹介

衆議院議員 石川昭政 衆議院議員 浅野哲
 日立市市議会議員 小林真美子 日立市市議会議員 下山田幹子

《余興の部》

アトラクション・・・記念館ファイブ 吉田正メロディー演奏
 抽選会
 助川賛歌斉唱



福祉まつり

令和5年 2月5日(日) 開催されました



《講話》

介護予防から介護サービスまでの在宅生活支援について
 講師：地域包括センター銀砂台
 センター長 石 崇宣氏

《ミニコンサート》

茶吹鈴 エアロフォン(電子楽器演奏)

《抽選会》

ちょっと豪華な景品が・・・



利用団体代表者会議ご案内

★日時 3月 5日 (日)
 10時～
 ★場所 助川交流センター
 2F 大会議室

助川学区コミュニティ推進会 総会のご案内

★日時 4月 9日 (日)
 10時～
 ★場所 助川交流センター
 4F ホール

助川交流センター運営委員会 総会のご案内

★日時 5月 12日 (金)
 10時～
 ★場所 助川交流センター
 2F 大会議室

《ふるさとの民俗遺産,文化資源》

助川

で繋ぐ

『日立二十三夜尊』

■市内鹿島町1丁目の日立銀座通りにある二十三夜尊は、古くから「三夜さん」として親しまれ、現在も地域の人たちによって守られています。また、毎月旧暦二十三日の縁日には二十三夜尊前に手打ちそばなどが出店し、参詣者も少なくないようです。

★二十三夜尊とは・・・二十三夜尊は「月待ち講」といわれるもので、月齢二十三日の夜に「月の出」を待って月を拝むものです。月齢の二十三夜といえは「月の出」は真夜中になりますが、それまで講中あるいは地域の人たちは共に過ごし、つながり確かめ合う機会にもなったと考えられます。こうした「月待ち信仰」はかつて各地に広まりを見せていましたが、現在は少なくなり、「二十三夜講」「月待ち塔」などの石塔が残っているだけです。

★日立二十三夜尊の歴史・・・銀座通りの二十三夜尊前に建てられた説明版には、「二十三夜尊は、明治初期の頃から、助川新道(現在地・日立銀座通り)に建立されてありましたが、大東亜戦争中、焼夷弾爆撃により、本堂、付属建物等悉く焼失され、終戦直後、現在地に再建されました。」とあります。戦前の二十三夜尊も銀座通りにあったということで、現在の場所とそれほど離れていない場所にあったと考えられます。いずれにしても、明治初期にはお堂があったことは間違いないと思います。二十三夜尊は銀座通り商店街とともに発展し、毎月の縁日には大勢の参詣者で賑わったということです。



日立二十三夜尊

■本尊中央は勢至菩薩で、隣に「子育て観世音菩薩」が祀られています。勢至菩薩は観音菩薩とともに阿弥陀仏の右脇侍で、智慧の光をもって一切を照らして衆生が地獄・餓鬼界に落ちないように救う菩薩といひます。最近では「縁結び」「金運」「合格」に恵まれるとして、特に11月の縁日は、「霜月三夜は逃げても詣れ」のことわざにもなっているとのことです。



二十三夜尊本尊

★地域で守る二十三夜尊・・・毎月旧暦二十三日に行われる「二十三夜尊縁日」には、日立銀座もーる元気UP協議会を中心とした地域の方々が参詣者への対応や、多くのマーケット出店などを支え、二十三夜尊を守っています。

★他の二十三夜尊・・・市内の二十三夜講は、現在ほとんど行われてないようですが、折笠町中坪では男衆によって庚申講の合祀講として続いているようです。この時に掲げる掛け軸が水戸市松本町・桂岸寺の「二十三夜勢至菩薩画像」といひます。

桂岸寺は勢至菩薩が本尊で「谷中の二十三夜さん」として知られ、やはり旧暦23日が縁日で、縁結び、金運、合格に恵まれるとして参詣者が現在も多いようです。別に延命地藏尊(通称ぴんころ地藏)も有名です。